

はじめに

当センターは昭和 36 年 11 月に 70 名定員の精神薄弱者援護施設「かつらぎ」の開所から始まり、その後救護・更生・児童・授産施設の順に続いて開所され、ピーク時の平成 8 年には 7 施設・定員 500 名もの規模となりました。その後ノーマライゼーションの理念に基づき、砂川センターの各施設に入所されていた方々も地域で暮らす事が出来るよう地域生活移行を進めてきました。

地域における社会資源の整備も伴って、地域生活移行は順調に進み、その役割を終えた施設は順次幕を下ろしました。

そして平成 21 年 4 月より強度行動障がい者支援に特化した自立支援第一課 いぶき（定員 40 名） 社会関係障がい支援に特化した自立支援第二課 つばさ（定員 30 名）の 2 課が開設され、現在に至っております。

近年は学術的研究の発展や支援技法の向上、及びそれらの普及を図る研修体系の整備などにより、障がいがある方へのサービスは大きな変化を遂げております。当センターは引き続き地域生活移行を進めると共に、質の高い支援の実践と研修機能により府内への浸透を図る事がその使命であると考えております。

本紀要におきましては、いぶき、つばさの主に専門的プログラムと地域生活移行に向けた取り組みについて掲載しております。当センターの理念は「自立と生きがいをめざして」ですが、その理念に基づいた支援をお伝え出来ればと思います。そして当センターへのご理解が深まるとともに、少しでも支援の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、砂川紀要を御高覧いただき、当センターにおける支援のあり方をより充実したものとするためご意見、ご批判をお聞かせいただければ幸いと存じます。

所長 赤井 計洋